

令和2年度全国高校選抜（北海道大会）審判員報告書

C3 審判長 氏名 安福康夫

1. 採点上打ち合わせた事項

(1) 審判研修会の実施

ア 採点競技の特性について

- ・ルールに則って順位付けをすること
- ・採点結果は新体操の方向性を指し示すものであること

イ 審判のあり方について

- ・審判員としてのモラルを遵守すること。
- ・監督・選手との接触は挨拶程度とすること。

ウ 個人競技の採点について

(ア) 構成

- ・難度だけでなくその他の技の組み合わせ価値について見極めること。
- ・実施上のミスが構成得点に影響しすぎることが多いため、その影響する部分を確認し、減点しすぎないように注意をすること。
- ・運動と手具操作の組み合わせについて、その価値を見極めること。
- ・転回系のバリエーションの偏りに気をつけること。

(イ) 実施

- ・動きの質と手具操作の同調性を見極めること。
- ・目に見えた減点はしっかりと引くが、減点ありきの採点はしないこと。

エ 団体競技の採点について

(ア) 構成

- ・6人に満たない演技の採点について、人数減点以外の項目についても見極めて採点すること
- ・難度だけでなくその他の技の組み合わせ価値について見極めること。
- ・徒手系要素と転回系要素の同時性についてしっかりと確認し採点すること。
- ・近年求められている移動の幅や運動を伴う隊形変化など、高度な運動に着目して採点すること。

(イ) 実施

- ・運動の質を重視し採点すること。
- ・運動の途切れや不自然な流れについて着目すること。

(2) ビデオによる採点研修の実施

特に中位層から下位層を重点的に採点練習をし、採点基準をすり合わせた。

2. 採点上起こった事項とその処理

- (1) 試合前にケガをし、演技できないため、コールの後、フロア外で返事をして帰った選手がいた。今回は選手・監督に注意をするのみとし0点扱いとした。演技は競技面に入って初めて成立するので、このような場合は、入場後に一度静止してから演技を終了していただきたい。

3. その他特記事項・意見・感想等

コロナ禍の大会ということもあり、選手並びにすべての大会関係者の努力にこたえられるよう、審判員一同心を込めて採点をさせていただきました。

団体では上位数チームは夏の大会に引けを取らない演技内容と実施で、ハイレベルな戦いとなった。またチーム事情から6人に満たないチームも多かったがそれを感じさせない工夫も見られ、選手・監督の大変な努力を感じられた。中でも印象に残ったのが、選手の技術レベルはあまり高くないのか、転回系の難度をかなり低く抑えられているが、その代わりに徒手を美し

くこなし、宙返りの姿勢や着地などもきっちりと抑えているチームがあった。昨今の新体操男子は、多少の無理をしても高い難度を取り入れなくては得点が出ない傾向があるが、このようなチームを実施面で高く評価していくことが競技の普及発展、また安全性の確保に必要であると感じた。選手の育て方が素晴らしいチームであると感じた。

個人では各県1名の出場枠ということもあり、ハイレベルな選手から発展途上の選手までまちまちの大会であった。全体的に感じたことは、難度の取り方や手具操作の内容がほぼ同じで、多様性に欠ける選手が多かったことである。時期的なことや今年のインターハイ種目とは違ったことなどが起因しているかもしれないが、ジュニア時代から活躍している選手も多くいるため、さらなる工夫を期待したい。

最後になりましたが通常でも大変な運営に加えて、きめ細やかな感染防止対策に取り組んでいただいた役員の皆様、実行委員会や補助役員の方々のご尽力により素晴らしい大会が無事終了できたことを心から感謝申し上げます。

C3 団体競技及び個人競技 構成主任審判員 菊地 伸宏

1. 採点上打ち合わせた事項

【個人】

- ・難度認定だけにとどまらず、全体としての構成の難しさを見極めること。
- ・要求要素の不足について見極め、許容範囲をどの程度で見るか。
- ・演技中の手具操作の多様性と難しさを見極め得点に反映させること、それが身体の運動とともに自然に行われているかを評価し、得点に反映させること
- ・上位が拮抗することが予想されるので、得点の天井を定めることなく、構成内容にふさわしい得点差をつけられるようにする。
- ・ルール上、実施に影響される部分があるが、それ以外の部分は構成上の難易度をしっかりと見極め、実施に影響されすぎないこと。

【団体】

- ・徒手系・転回系ともに団体競技の見せ所である同時性を組み込んでいるチームを評価していくこと
- ・時期的に選手間のレベル差が大きいことが予想されるので、チーム全体として完成度が高いチームを評価していくこと。
- ・転回系の同時スタートや2段スタートの価値を見極め、単に要素を満たすためだけのスタートになっていないか判断し評価する
- ・構成としての自然性を欠いた動きはあまり高評価としない
- ・転回系と徒手系のバランスに偏りがないかどうか確認する。
- ・隊形変化のバリエーション、移動のバリエーションが単調なものになっていないか見極め、フロアの空間使用が適切に行われているか判断する。

2. 採点上起こった事項とその処理

- ・競技運営の時間的制約により、決定点は変えずに、主任審判が行うルール上の中間点の許容範囲をオーバーした得点の調整を、審判長に行っていただいた。

3. その他特記事項・意見・感想等

久しぶりの高校生の大会で、昨年度発表の舞台がなかった高校生たちの思いのこもった演技が見られ感動的であった。また、練習環境に制限が多い中で、ここまで仕上げてきた監督はじめチーム関係者に敬意を表します。コロナ禍における大会運営で気を遣うところの多かった大会でしたが、地元実行委員会のご協力のおかげで大過なく終えられましたことを感謝申し上げます。大変ありがとうございました。

C 3 団体競技及び個人競技 実施主任審判員 岡田幸樹

1. 採点上打ち合わせた事項

(1) 団体・個人共通

- ・それぞれの質をしっかりと見極めることの確認（同時性・手具操作・体作り）。例えば伴奏音楽との一致、動きの緩急、重心の引き上げや屈脚の深さ、自己の身体支配や熟練度等
- ・今年度最初で最後の高校生の大会において下位層の選手も多数出場予想され、採点に苦慮する面が多々あると思われるが自信をもって採点することを確認。
- ・減点ばかりに捉われないで動きの本質や作品全体の出来栄を考慮することを確認。

(2) 団体競技

- ・四肢の動きだけにとらわれず、しっかりと体幹が使われているかを見極めること。
- ・運動の質。いわゆる、重心（踵）の引き上げ、姿勢（上挙の肩の上げ）、動きの柔軟性、跳躍力、転向などの軌道を見極めること。

(3) 個人競技

- ・手具の特性を生かし、自然性からくる深さ・大きさ・スピードを重視すること。
- ・持ち方・投げ受けの処理の仕方での減点に対する共通理解をもった。
- ・シェネやタンブリング時の軸ぶれ及び膝割れの減点をしっかりとる。

2. 採点上起こった事項とその処理

- ・特になし

3. その他特記事項・意見・感想等

(1) 団体競技

- ・タンブリングの難度は高いものを挑戦するが、完成度が低く不完全なため演技として無理を感じてしまう。
- ・このような時期もあって上位3チームと他との差がはっきりと出た大会であった。まだまだ競技の普及・発展がなされていない事も大きな要因と考えられる。

(2) 個人競技

- ・タンブリングの着地に対する姿勢（先取り）ができていない。
- ・手具を投げ上げてからの間やキャッチをした後の動作など、もっと上手く裁いて欲しい。（特に難度の取り方や手具の受けの姿勢は座が多い。運動の流れを切らさないように）
- ・全体的に重心が低く（手具操作にばかり気を取られている）基本姿勢（特に爪先）がきかない。
- ・特にロープの演技で上半身が動いていない。
- ・演技の後半で尻窄みになる選手が多い。

(3) 全体的所感

- ・能力の差が大きくなったように感じた。が、このコロナ禍で今大会が成功裡に終えられたことは、関係者の皆様の並々ならぬご支援のおかげであり、深く感謝と敬意を申し上げます。
- ・残念ながらコロナの影響や怪我等または部員不足で大会に参加できなかった高校生に今一度、夏の全国総体等で活躍できる場ができるように皆で協力していきたいと思えます。